一年生たちとひよめ

新美南吉

学校へいくとちゅうに、大きな池（いけ）がありました。

一年生たちが、朝そこを通りかかりました。

池の中には**ひよめ**が五六っぱ、黒くうかんでおりました。

それをみると一年生たちは、いつものように声をそろえて、

ひイよめ、
ひよめ、
だんごやアるに
くウぐウれッ、

とうたいました。
するとひよめは頭からぷくりと水のなかにもぐりました。だんごがもらえるのをよろこんでいるようにみえました。
けれど一年生たちは、ひよめにだんごをやりませんでした。学校へゆくのにだんごなどもっている子はありません。
一年生たちは、それから学校にきました。
学校では先生が教えました。
「みなさん、うそをついてはなりません。うそをつく

のはたいへんわるいことです。むかしの人は、うそをつくと死んでから赤鬼（あかおに）に、舌（した）べろを釘（くぎ）ぬきでひっこぬかれるといったものです。うそをついてはなりません。さあ、わかった人は手をあげて。」

みんなが手をあげました。みんなよくわかったからであります。

さて学校がおわると、一年生たちはまた池のふちを通りかかったのでありました。

ひよめはやはりおりました。一年生たちのかえりを待っていたかのように、水の上からこちらをみていました。

ひイよめ、
ひよめ、

と一年生たちは、いつものくせでうたいはじめました。しかし、そのあとをつづけてうたうものはありませんでした。「だんごやるに、くぐれ」とうたったら、それはうそをいったことになります。うそをいってはならない、と今日学校でおそわったばかりではありませんか。

さて、どうしたものでしょう。

このままいってしまうのもざんねんです。そしたらひ、ょ、ひよめのほうでも、さみしいと思うにちがいありません。

そこでみんなは、こう歌いました。

ひイよめ、
ひよめ、
だんご、やらないけれど、
くウぐウれッ

するとひ、ょ、ひよめは、やはりいせいよく、くるりと水を

くぐったのであります。

これで、わかりました。ひよめはいままで、だんごがほしいから、くぐったのではありません。一年生たちによびかけられるのがうれしいからくぐったのであります。

底本：「ごんぎつね　新美南吉童話作品集1」てのり文庫、大日本図書
1988（昭和63）年7月8日第1刷発行
底本の親本：「校定　新美南吉全集」大日本図書
※底本では題名の「ひよめ」に傍点が付いています。
入力：めいこ
校正：鈴木厚司、もりみつじゅんじ
2003年9月29日作成
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、

校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。